

右足底に生じた Collagenoma の 1 例

鈴木亜紀子[†] 大内 結 佐藤之恵 深澤奈都子 白石淳一* 佐藤友隆

IRYO Vol. 65 No. 4 (217-220) 2011

要 旨

症例は55歳、男性。25年前より認める右足底の皮膚腫瘍を主訴に来院した。初診時臨床所見は3×3×1 cm大の有茎性の皮膚腫瘍であり、自覚症状は認めなかった。局所麻酔下に全摘した。病理所見では Hematoxylin-eosine 染色で膠原線維の増生を認め、Elastica van Gieson 染色で弾性線維の減少を呈していたため、collagenoma と診断した。術後、再発は認めていない。

キーワード 足底, collagenoma, 外傷後

はじめに

真皮結合組織の増生を示す疾患には結合組織母斑と総称される疾患があり、collagenoma は結合組織母斑に含まれる。われわれは、足底の外傷後に生じた collagenoma を経験した。足底に生じる collagenoma はプロテウス症候群（プロテウス症候群とは、1983年に Wiedemann らにより小児科領域で提唱されたさまざまな形態学的奇形を示す先天性複合過誤腫症候群である）にともなって認められることがあるが、本症例においては、他の身体的異常を合併していなかったため、単独性の collagenoma と考えた。足底の collagenoma の報告はまれであるため、若干の考察を加え報告する。

症 例

患者：55歳、男性

初診：2010年6月18日

主訴：右足底の皮膚腫瘍

既往歴：高脂血症

家族歴：特記すべきことなし

現病歴：30才の頃、プラスチック製のマーカーを右足底で踏み、その後同部位に小指頭大の常色結節を認めていた。6年程前より同結節が徐々に増大し、精査目的のため当科初診を受診した。

現症：右足底に30×30×10mm大、表面平滑な常色有茎性でドーム状の皮膚腫瘍を認める(図1, 2)。臨床検査成績：血液、生化学検査は正常範囲内。

病理組織：腫瘍の中央部より皮膚生検を施行した。

全体像は表皮に覆われた類円形でやや平べったいポリープ状を呈しており、角質肥厚、表皮肥厚を認める。真皮内の膠原線維の著明な増生が病変の主体を成しており、膠原線維に特異な配列はみられない。線維芽細胞の増殖は認めない(図3, 4)。Elastica-van Gieson 染色で弾性線維の減少を呈し、

国立病院機構東京医療センター皮膚科、*臨床検査科 †医師

別刷請求先：鈴木亜紀子 国立病院機構東京医療センター 皮膚科 〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1
(平成22年10月1日受付、平成23年2月4日受理)

A Case of Isolated Plantar Collagenoma

Akiko Suzuki, Yui Ohuchi, Yukie Satoh, Natsuko Fukazawa, Jyunichi Shiraishi* and Tomotaka Satoh, NHO Tokyo Medical Center

Key Words: planta, collagenoma

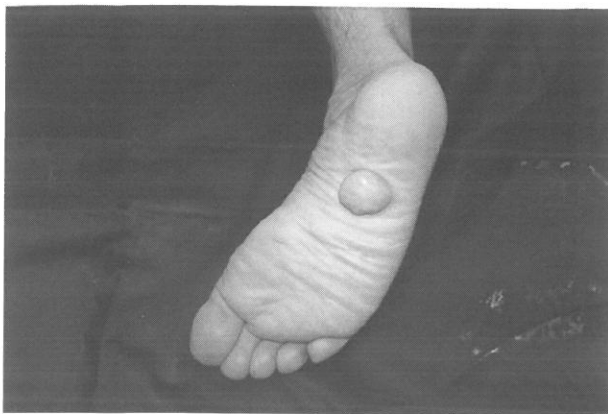


図1 初診時臨床写真

右足底に30×30×10mm大、常色の広基有茎性皮膚腫瘤を認めた

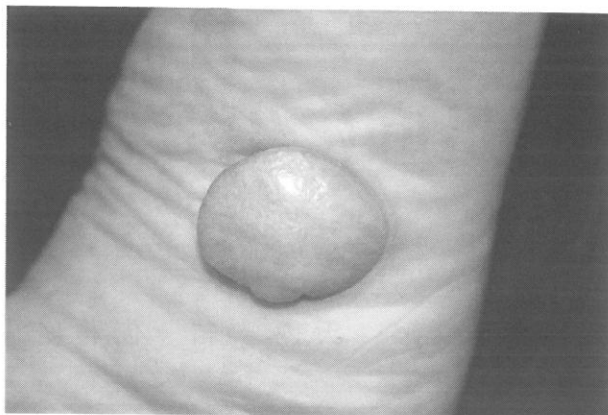


図2 臨床写真 拡大像



図3 病理組織 全体像 (HE 染色)

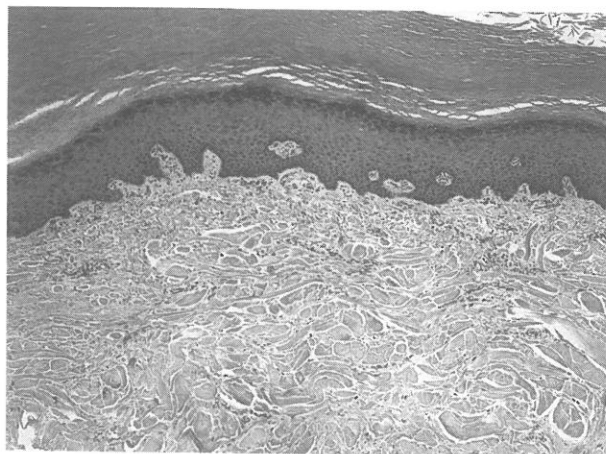


図4 HE 染色 (×40)

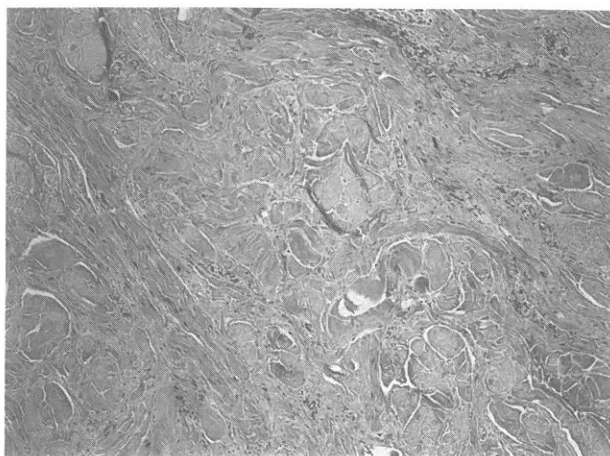


図5 HE 染色

図4より下層の真皮所見 (×40)

膠原線維の密な増生が真皮全層にわたり認められる

Masson-trichrome 染色にて青染色、膠原線維であることを確認した。

肉眼所見、病理所見より collagenoma と診断した。

治療および経過

2010年7月15日に局所麻酔下にて、全摘した。術後半年経つが、経過良好であり、再発を認めない。

考 察

真皮結合組織の増殖を示す疾患には、結合組織母斑と総称される疾患群が存在する。Uitto らによると、結合組織母斑の概念は、膠原線維、弾性線維、プロテオグリカンに由来する物質の過剰蓄積によって生じる病変と捉えている¹⁾。Uitto らが提唱した分類を表に示す(表1)。自験例は、膠原線維が増殖するタイプのうち、後天性単独性 collagenoma と診断した。足底の単独性 collagenoma は、プロテウス症候群にともなうことが知られるが、自験例ではプロテウス症候群を疑わせる臨床症状は認めなかったため、後天性の単独性 collagenoma と考えた。

足底の単独性 collagenoma の報告例は、われわれが調べた限りでは海外報告を含め、1991年以降

表1 Uitto らの結合組織母斑の分類

- A. 主に膠原線維が増殖するタイプ
1. 遺伝性
 - a. 家族性皮膚collagenoma
 - b. 結節性硬化症における粒起革様皮膚
 2. 後天性
 - a. 発疹性collagenoma
 - b. 単独性collagenoma
- B. 主に弾性線維が増殖するタイプ
1. 遺伝性
 - a. 骨斑紋症における播種性扁豆状皮膚線維腫
 - b. 弾性線維性仮性黄色腫
 2. 後天性
 - a. 蛇行性穿孔性弾力線維症
 - b. 単独性エラストーマ
 - c. 弾性線維仮性黄色腫（まれ）
- C. 主にムコ多糖類が増殖するタイプ
1. 遺伝性

遺伝性ムコ多糖症にともなう皮膚結節
 2. 後天性
 - a. 粘液水腫性苔癬
 - b. 限局性ムチン沈着症

9例のみである（表2）。自験例と同様の外傷後に collagenoma が生じた報告は海外報告で1例のみであった⁴⁾。その発症機序について、局部への頻回の刺激や小さな外傷に対する治癒機転における膠原線維の合成や蓄積を亢進させるような分子代謝の変化が関与している可能性が指摘されている⁴⁾¹¹⁾。また、鑑別すべき疾患としては、ケロイド、軟性線維腫、皮膚線維腫、組織球腫、真皮成分が増殖する強皮症、sclerotic fibroma などが挙げられる。ケロイドとの鑑別については、臨床的には発症部位の違いで鑑別可能である。病理所見でも本症は主病変が真皮であり、膠原線維が全層にわたり認められ、膠原線維のヒアリン化、膨化、硬化などの変性像を認めないのに対して、ケロイドでは病変は真皮中層より深層に膠原線維が増生し、病初期では膨張した線維芽細胞を認めたり、陳旧性のもものでは膠原線維のヒアリン化が顕著となる点で異なるといえる。

その他の疾患についても臨床的、病理組織学的に鑑別可能と考えられる。自験例は足底に外傷後発症

表2 足底の collagenoma 報告例（1991年以降）

	報告者	年齢	大きさ	外傷
1991年	Botella-Estrada Rら ²⁾	6歳 女	2×1cm大 大脳様腫瘤	—
1994年	Martinez Wら ³⁾	11歳 男	4.5×3.5×0.5cm大 大脳様腫瘤	—
1995年	Moulin Gら ⁴⁾	記載なし	疣状collagenoma	+
1998年	福田ら ⁵⁾	52歳 男	5.5×4×1cm大, 表面平滑 扁平隆起性腫瘤	—
1999年	佐藤ら ⁶⁾	42歳 男	9×7cm大 表面疣状 扁平隆起性腫瘤	—
2002年	Altinyazar HCら ⁷⁾	19歳 女	3×2cm大 表面角化した結節	—
2002年	Choi JCら ⁸⁾	23歳 女	3cm大 紫紅色疣状腫瘤	—
2003年	Nico MMら ⁹⁾	22歳 女	2.5cm大 弾性軟、常色丘疹	—
2008年	Nelson AAら ¹⁰⁾	40歳 女	3×2cm大 大脳様結節	—

した単独性 collagenoma の 1 例と思われるが、同様の報告は少ないため、今後の症例の集積が必要と思われる報告した。

[文献]

- 1) Uitto J, Santa Cruz DJ, Eisen AZ. Connective tissue nevi of the skin. Clinical, genetic, and histopathologic classification of hamartomas of the collagen, elastin, and proteoglycan type. *J Am Acad Dermatol* 1980 ; 3 : 441-61.
- 2) Botella-Estrada R, Alegre V, Sanmartin O et al. Isolated plantar cerebriform collagenoma. *Arch Dermatol* 1991 ; 127 : 1589-90.
- 3) Martinez W, Arnal F, Capdevila A et al. Isolated plantar cerebriform collagenoma. *Pediatr Dermatol* 1994 ; 11 : 84-5.
- 4) Moulin G, Balme B, Musso M et al. Perforating verruciform collagenoma, an exogenous inclusion skin disease? Apropos of a case induced by calcium chloride. *Ann Dermatol Venereol* 1995 ; 122 : 591-4.
- 5) 福田均, 千原俊也, 芝田孝一. 足底に生じた collagenoma の 1 例. *皮膚* 1998 ; 40 : 48-51.
- 6) 佐藤友隆, 村田隆幸, 谷川瑛子ほか. 疣状腫瘍を呈した足底結合組織母斑の 1 例. *臨皮* 1999 ; 53 : 838-40.
- 7) Altinyazar HC, Kargi E, Gün BD et al. Isolated plantar collagenoma: a case report. *J Dermatol* 2002 ; 29 : 508-11.
- 8) Choi JC, Lee MW, Chang SE et al. Isolated plantar collagenoma. *Br J Dermatol* 2002 ; 146 : 164-5.
- 9) Nico MM, Valente NY, Machado KA. Isolated plantar collagenoma. *Acta Derm Venereol* 2003 ; 83 : 144.
- 10) Nelson AA, Ruben BS. Isolated plantar collagenoma not associated with Proteus syndrome. *J Am Acad Dermatol* 2008 ; 58 : 497-9.
- 11) Cohen PR, Eliezri YD, Silvers DN. Athlete's nodules: sports-related connective tissue nevi of the collagen type (collagenomas). *Cutis* 1992 ; 50 : 131-5.